

第2回日本周産期麻酔科学会学術集会

会期：2022年3月25日(土)～26日(日)

会場：九州大学医学部百年講堂

会長：山浦 健 (九州大学大学院医学研究院 外科学講座 麻酔・蘇生学分野)

ランチョンセミナー 4

生体モニタリング情報を どう周産期管理に活かすか

座長

谷口 巧 先生

金沢大学 医薬保健研究域医学系 麻酔・集中治療医学 教授

演者

杉田 道子 先生

熊本大学病院 産科麻酔学寄附講座 特任教授

日時

2023年3月26日(日) 12:20～13:10

会場

第1会場 (1F 大ホール)

Abstract

周産期医療に携わる麻酔科医にとって不妊治療から産褥に至るまで、最優先されるのは言うまでもなく母体と胎児の安全である。母体の生体反応は妊娠経過とともに生理的また各種病態により変化し、その影響は胎児へと直結する。一方生体モニタリングは母体の状態を把握し、危機を早期に感知するため有用であるが、モニタリング機器や得られる情報を取捨選択し、フィードバックを行って適正化に努めることが重要である。

無痛分娩、帝王切開ではneuraxial anesthesiaが選択されることが多く、非侵襲的モニタリングが推奨される。子宮胎盤血流の指標としては血圧<心拍出量との報告もあり、非侵襲的心拍出量モニタリングへの期待は大きい。esCCO (estimated continuous cardiac output) は、心電図R波とパルスオキシメータ脈波立ち上がりまでの脈波伝播時間から心拍出量を推定することができる。我々が経験した心血管疾患合併妊婦の分娩管理を交えながら、有用性と測定上のこつについてお話ししたい。